

# 島根県馬術連盟

## —— これまでのあゆみ

くにびき国体招致をきっかけに連盟結成の動きが始まり、昭和48年、島根大学に馬術部同好会が創設された。その翌年の昭和49年に島根大学馬術部を母体として島根県馬術連盟（会長：<sup>※</sup>大島武敏氏）が結成された。昭和50年の第30回三重国体では島根大学生が活躍し、泥谷、五島の両選手が成年男女貸与馬障害飛越団体トーナメントで3位に入賞する快挙を成し遂げた。

この活躍で馬術ブームが起こり、松江、出雲、益田の3か所で普及や選手の育成が行われ、国体に向けての努力が重ねられた。

昭和57年、くにびき国体本番では成年障害飛越団体で原伸二選手、後藤一郎選手が1位、個人でも後藤一郎選手が優勝を飾った。馬場馬術でも原伸二選手が1位となり、総合馬術で堀江増樹選手が5位に入った。少年では奥野竜三選手、須田弘選手が障害飛越団体で3位入賞、個人では奥野竜三選手が1位など活躍し総合1位に輝いた。

くにびき国体から7年経った平成元年の第44回北海道国体では、成年種別に成年1部と2部が設けられ種目数が大幅に増えた。成年2部クロスカントリー競技では吉浦洋子選手が4位、成年2部五段障害飛越競技で新宮啓史選手が7位に入賞し、くにびき国体以来となる躍進期の到来を予感させた。

翌年の第45回福岡国体においては、成年1部団体障害飛越競技に出場した吉浦洋子選手と新宮啓史選手は1回戦で福島県との対戦を勝ち上がり、2回戦では地元開催県の福岡県に惜敗したものの5位入賞を果たした。さらに、成年2部二段階障害飛越競技では山本泰司選手が5位に入賞、2年連続して複数の競技種目に入賞し競技得点を獲得する快挙となった。

平成5年に徳島県で開催された第48回東四国国体においては、成年1部団体障害飛越競技に光成重美選手と吉浦洋子選手が出場し、1回戦で惜しくも敗退したもののその成績により6位に入賞した。少年トップスコアー競技では大櫃潤司選手が7位に入った。この平成元年から

平成5年までの5年間は、本連盟にとって、くにびき国体に次ぐ充実期であった。

しかし、平成6年以降は、選手の減少などにより、中国ブロック大会突破や本国体参加ができない年があるなど、苦戦を強いられている状況が現在まで続いている。選手の確保と組織体制の再構築に向けた取り組みが求められている。

## —— 現在の状況

2030年の島根かみあり国スポでは、馬術競技が隔年開催種目となることが決定し不実施となった。開催地も決定されていたが大変残念であった。そのため、選手の強化や組織体制づくりの取り組みが県内の他競技の強化の流れから取り残されないよう、慎重に検討を進める考えである。

一方、中央競技団体から、馬術競技を毎年開催に復活すべく、各県馬術連盟が体制整備や強化に積極的に取り組むよう協力を求められており、対応が必要な状況である。

現在、県内においては、MKホースパーク（出雲市東郷町）と他力塾（さくらおろち牧場・雲南市木次町）の2団体が県馬術連盟に加盟して活動しており、強化や普及に取り組んでいる。

## —— これから

第82回長野国スポ大会及び第84回島根国スポ大会では馬術競技は開催されないが、県馬術連盟未加入の乗馬団体を含め、団体間の情報交換を進めながら、協力して県内乗馬人口の拡大につなげたい。

馬術が隔年開催により実施されない年があることによる強化の難しさはあるが、地元選手及びふるさと選手の発掘に努めながら、育成強化に取り組んでいく方針である。



MKホースパーク



他力塾（さくらおろち牧場）